

スポーツ振興審議会（スポーツ振興計画検討部会を含む）での主な意見

意見の概要	
第1回スポーツ振興計画検討部会（平成21年3月9日開催）	
学校教育と地域スポーツの連携について言及する必要があるのではないか。	【鍋島委員】
対応策の柱の「まちの活力創出に向けたスポーツの振興」に「スポーツを通じたまちの活性化」という内容があるが、つまり、スポーツとまちづくりになってくるので、「多様な連携」とか「ネットワークの創出」なども必要である。	【曾根委員】
スポーツを振興すれば市民がより豊かになり、スポーツをしていない人も含めて振興できることを表現してほしい。	【崎田委員】
第2回スポーツ振興計画検討部会（平成21年7月28日開催）	
「新しいスポーツ王国広島」の創造で、「新しい」という言葉がついたのは、これまでのようなトップアスリートの育成ということを中心とした、底辺が市民で、頂点がトップアスリートという三角形ではなく、トップアスリートの三角形と、障害者の三角形と、一般市民の三角形が一体となったピラミッド型の王国ではないか。	【田川委員】
最終的には、スポーツで市民の人達に笑顔を作っていくということであると思う。	【曾根委員】
単なる言葉だけのスポーツ王国広島を作るのではなく、それが指標化できるような背景をもって書いていくことが大切である。	【鍋島委員】
このままでは目玉がないものになってしまう。特色の無いスポーツ振興計画になってしまう。どういう目玉を今回のスポーツ振興計画で作っていくのかということが大事で、話し合いの中で特色のあるスポーツ振興計画を作してほしい。	【曾根委員】
作った計画をチェックしていく機関がいるのではないかと思う。	【田川委員】
第3回スポーツ振興計画検討部会（平成21年9月8日開催）	
総合型地域スポーツクラブの位置づけについて、「学区体育協会が総合型地域スポーツクラブに移行していくのか」、あるいは「学区体育協会の内部に総合型地域スポーツクラブの役割を担う部を作るのか」、それとも「別の組織として総合型地域スポーツクラブを立ち上げるのか。またそれを誰が作るのか」ということも今後我々の課題ではないかと考えている。	【萩原委員】
学区体育協会の見直しということは、思い切って今回のスポーツ振興計画の中に盛り込むことによって変わる可能性もあると思う。いずれにしてもそれは議論をしないといけない問題であると思う。	【曾根委員】
もう少しトップス広島やトップスポーツチームの情報提供を体育指導委員にしていけばもう少し盛り上げていけるのではないかと思う。やはり上手な人の試合を見れば会って見たいという気になる。	【小野副部長】
トップスポーツ選手は、子どもの関心が高いことから、もっといいものを見せてあげるなどいい環境を与えてやればいいと思う。	【中野オブザーバー】
「校庭の芝生化の推進」というのは非常に重要であると思っている。環境問題の側面から子どもの健康ということからも重要であると思う。	【曾根委員】
スポーツ振興計画は行政計画なので、おおまかには全体を網羅するべきだと思う。その中で、重点施策を絞って広島らしさを打ち出していけば良いのではないか。	【東川部長】

意見の概要

少なくとも振興計画の内容を考える上で何かきっかけがあった方がいいだろうなということで4本柱にしたわけである。まず、大きく柱を立てておいて、その中のシンボルとなるような項目を見て、「広島はこういうことをやろうとしているのか」というものがそこに見えてこなければならないと思う。【東川部会長】

基本計画の部門計画であり、今後10年というスパンでいくのであれば、5年くらいで評価し、見直しが必要ではないか。そういったことも踏まえて次の計画も考えなければならぬと思う。【東川部会長】

第4回スポーツ振興計画検討部会（平成21年10月21日開催）

基本理念の図の四つの筒が一つになるというのは、あまり目新しいものではない。スポーツ政策はどちらかというと、予算をつけていくのは二番手三番手だと思うが、そうした時にせつかく作った計画の実現性で考えると、総合計画のように他の分野と一緒に実施するようなものであると可能性が高いと思うので、他の分野とセットになり易いような基本理念の書き方がいいと思う。

例えば、概念図の4つの筒の矢印の先の部分は、「人が輝く新たなスポーツ環境の充実」「笑顔あふれるスポーツによる活力ある都市の創造」などに変えることもできるのではと思う。【曾根委員】

施策の分類の仕方については検討した方がいいかもしれない。4本柱の束ね方、あるいは束ねる力は何かと考えたとき、「スポーツが好き 笑顔が好き 広島が好き」というこの3つの力が束ねる力になるのではないかと思う。

「スポーツが好き」は、好きになるには何が必要なのかという視点で、「笑顔が好き」は、仲間づくりやボランティア、共に支えるといった視点で考える。それらが平和と結びついて「広島が好き」ということに発展していくと思う。【田川委員】

学校における指導者の問題が非常に深刻である。地域にたくさん指導者はいるが、上手く活用できていない。【中野オブザーバー】

学区体育協会は、小学校では指導することができているが、中学校では難しい面もある。【萩原委員】

どうやって上手に橋渡しをしていくのかということも振興計画の中に盛り込めるのではないか。【東川部会長】

すべての人にスポーツを身近に感じてもらうことが大切である。「チャンスとしての場所づくり」つまり身近な体力づくりの場や誰もが参加できる大会が必要である。【西野委員】

10年先にオリンピックを開催するという事は、計画の基本理念に近づくような形が出てくるのではないか。手づくり、あるいは我々ができる範囲でのオリンピックが検討されるのではないかと思う。

全体的な方向についても、10年先は自分たちがスポーツの準備をし、自分たちが実施し、そして次につなげて継続していくようなスポーツ環境というものを作っていくかなくてはならないと思う。市民レベルの、手作りレベルのイベントなど自分たちで作っていく姿勢が感じられればよい。【鍋島委員】

職場でのスポーツ・レクリエーションが結構盛んであるため、職域的な要素を入れればよいのではないか。【鍋島委員】

目標値の設定に当たっては、市民のニーズだけではなく、全国レベルよりもっと高くするなど野心的な、高めの目標数値を設定するべきではないか。【鍋島委員】

意見の概要

スポーツ少年団の子どもたちに、ボランティアとしてイベントに参加してもらってはどうか。 【鍋島委員】

もっと体育指導委員が活動する場を作ってほしい。 【小野副部長】

広島らしさをアピールするオリジナルのものが必要である。例えば、三世代が参加できるイベントなど。 【阪田委員】

まちの活力創出に向けたスポーツの振興の一つに、スポーツと平和に関する取組があればよいのではないか。 【崎田委員】

平成21年度第1回広島市スポーツ振興審議会（平成21年11月18日開催）

「広島市のスポーツの現状」で、他の政令指定都市の計画と比べても、広島市の施策の体系を見ても、広島市のスポーツの現状が衰退しているとか変化をしているとかが分かるタイトルになっていけば全国と比べても広島市の現状が分かりやすくなるのではないか。 【鍋島委員】

皆さんがイメージしやすいようなタイトルにするような工夫が必要だと思う。計画策定の背景についてはさらに精査をしていきたい。 【東川会長】

基本理念の中で「本計画は」という部分から理念的なものになっているが、「生きがいを感じることができる明るく活気あふれる」だけでは物足りない感じなので、「明るく活気あふれるまちづくりに取り組む」の部分で「明るく活気あふれる平和なまちづくり」にし、「平和」を入れたらどうか。 【鍋島委員】

基本理念の概念図の中に、どう連携したかというものを示していかないと「新しい」ということにならないような気がする。四つの柱を引っ付けただけでは何を連携しようとしているのかが分からないので、連携の具体的なものが必要である。 【鍋島委員】

個々の具体的な施策と一体化ということがつながっていないので何かつながるものがほしい。例えばスポーツイベントであれば情報というものを一つの団体が担当するのではなく、様々なネットワークによる連携ができると思う。それと指導者の派遣についても一つの施策だけでなく、競技力向上でも必要であるし、生涯スポーツでも必要である。そういった意味での指導者のネットワークも大切である。情報、施設、指導者、国際大会支援などのネットワークができるようなものを重点項目に入れることができないか。 【鍋島委員】

縦軸に重点項目を置き、横軸に今のマンパワーの問題、情報提供の問題、エリアサービスの問題などを置くとそれぞれの事業において、これは地域スポーツであれ、国際大会であれ、障害者スポーツであれ、「仲間づくりの視点から見たもの」であるとか、あるいはここは「施設に関わるもの」、「情報提供に関わるもの」など、縦軸と横軸の関係で整理してみると分かりやすいのではないか。 【田川委員】